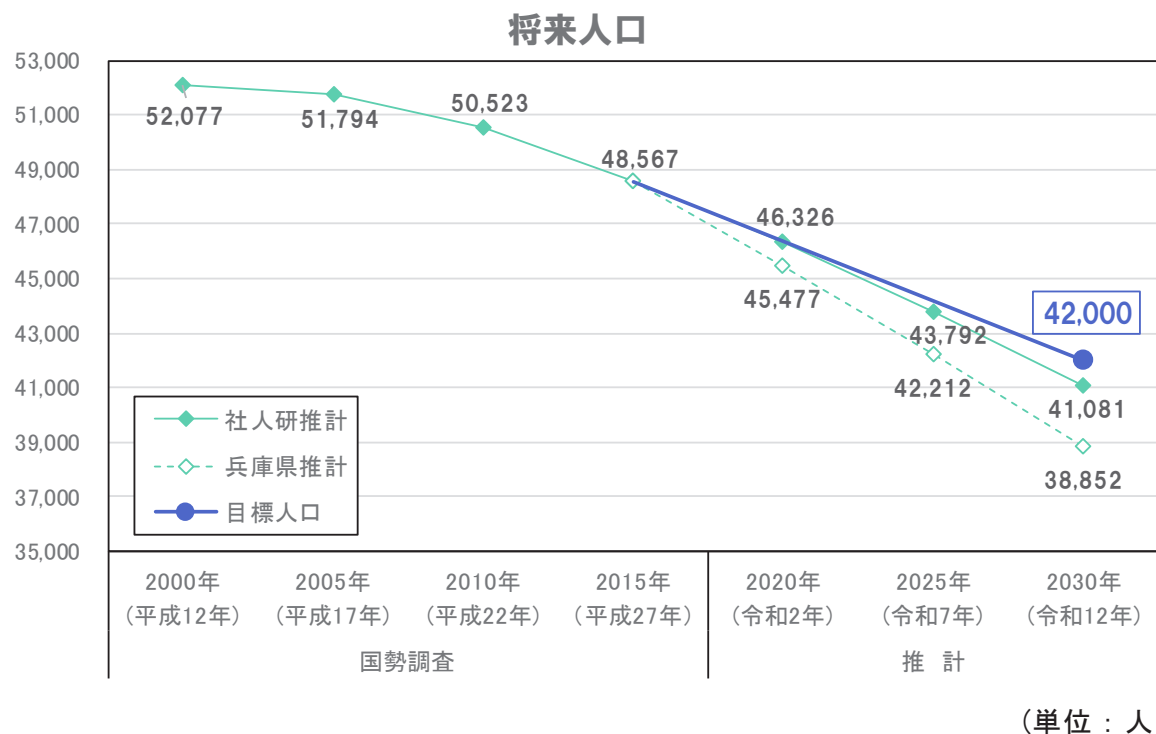


2 将来人口の長期的見通しと目標

全国的に少子高齢化が進み、人口減少時代にある我が国において、赤穂市も例外ではなく、国勢調査に基づけば2000年(平成12年)以降、人口減少傾向の中で推移しており、2015年(平成27年)には5万人を下回り48,567人となっています。

こうした状況の中で、国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口」(2018年(平成30年)推計)(以下、「社人研推計」という。)では、今後も人口減少が続き、2030年(令和12年)には41,000人程度と想定されています。

また、兵庫県による「兵庫県将来推計人口」(2019年(令和元年)推計)(以下、「兵庫県推計」という。)では、2030年(令和12年)には39,000人程度と想定されています。



	国勢調査				推計		
	2000年 (平成12年)	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2030年 (令和12年)
社人研推計					46,326	43,792	41,081
兵庫県推計	52,077	51,794	50,523	48,567	45,477	42,212	38,852
目標人口							42,000

このように想定される中で、「総合戦略」を含む本計画に基づく人口減少対策や将来像の実現を通じて、人口減少の抑制へと導き、2030年(令和12年)には42,000人を超える規模の人口確保を目指すこととします。

2030年(令和12年)の目標人口：42,000人